

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520423

研究課題名（和文） 中央アジアの多言語状況の調査研究—主としてウズベキスタンとクルグズスタンの場合

研究課題名（英文） A research study on multilingual circumstances in Central Asia, chiefly in Uzbekistan and Kyrgyzstan

研究代表者

菅野 裕臣（KANNO HIROOMI）

東京外国語大学・名誉教授

研究者番号：00091231

研究成果の概要（和文）：クルグズスタンとウズベキスタンのダウンガン人計4名を日本に招聘してダウンガン人に関する国際集会を持ったが、これはダウンガン人研究者の初めての日本訪問であり、これを基礎に日本ダウンガン研究会が発足することになり、その論集を作成することが出来た。さらに研究組織は上記2国を訪れ、またウズベキスタンのウズベク人、カザク人、高麗人研究者を招聘して、中央アジアの多言語状況についての研究・報告を行った。

研究成果の概要（英文）：Our research organization had an international conference with four Dungan scholars from Kyrgyzstan and Uzbekistan. This was so epoch-making in Japan that it caused the organization of the Japanese Circle of Dungan Studies and the publication of “Papers on Dungans”. The research organization visited above-mentioned two countries and invited Uzbek, Kazak and Korean linguists from Uzbekistan for interchange of sociolinguistic information.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：社会言語学 中央アジア諸言語 ドウンガン語

1. 研究開始当初の背景

(1) ソ連崩壊後ヨーロッパ人の中央アジアの社会言語学的状況に対する関心は中央アジア諸国の言語政策に集中しており、またそれらの国々は民族主義の台頭とあいまって

非科学的な議論が多い。

(2) 一般に中央アジアに広く分布していたペルシャ系諸民族の間隙をぬってチュルク系民族が西漸を行った結果「チュルク化」が

行われたと信ぜられているが、いわゆるチュルク化は決して完成したわけではない。例えばサマルカンドでウズベク語が優勢になるのはせいぜい第2次世界大戦後である。

(3) 中央アジアは多言語地域としてさまざまな興味ある言語的影響関係が観察されるが、第1に、言語接触：(A)異なる言語どうし、例えばウズベク語とタジク語、ドゥンガン語とロシア語、(B)同系の言語どうし、例えばタタール語とウズベク語、ドゥンガン語とシナ語など、第2に、2つ以上の言語の間のコードの問題があげられる。例えば系統の異なるタジク語とウズベク語の場合コードが多くの場合似通っていることが両言語の接近を容易にしている。またドゥンガン人がシナ人と意外に言語が通じないのはドゥンガン人の持つロシア語というコードの影響をドゥンガン語が強く持ったために語彙的に、特にシンタクスの面でシナ語と距離が生じたためであると思われる。

2. 研究の目的

(1) ウズベキスタンのウズベク人、カザク人、高麗人研究者を招聘して彼らの言語に関する情報を得、かつ意見交換を行う。

(2) ドゥンガン人研究者を招聘して、東京で国際集会を持ち、日本におけるドゥンガン研究に刺激を与える。

(3) ウズベキスタンの行き、タタール語とウズベク語、タタール語とロシア語等の接触及びウズベク語とタジク語との関係について観察する。

(4) クルグズスタンに行き、ドゥンガン語を巡る社会言語学的状況を調査する。

3. 研究の方法

(1) 研究対象言語保持者との意見交換 日本に招聘した研究者との間に有益な意見交換を行う

(2) 研究対象言語保持者による日本における言語的啓蒙運動 ドゥンガン人は日本ではまことに珍しい存在なので、研究者相手にその存在を知らしめる。また高麗人も日本ではあまり知られていないので、積極的に知らしめる必要がある。

4. 研究成果

(1) ① 第1に、2010年のドゥンガン人4名の招聘と彼らを含めた東京での国際集会が今回の最大の成果である。

会場では研究代表者の以前に収集した多くのドゥンガン語資料を展示し、ドゥンガン

人研究者による報告も事前に得たロシア語原稿とあらかじめ準備したその日本語訳を配布し、スライドをも交えた熱のこもったもので、多くの参加者が感銘を受けた。故橋本萬太郎氏によって始められた日本のドゥンガン研究はここに至って復活したと言ってよい。

ドゥンガン人の報告は次の通りである。

M・X・イマーゾフ、中央アジア・ドゥンガン人の言語と文学；クルグズスタンにおけるドゥンガン学

R・U・ユスーポフ、中央アジアドゥンガン人の経済＝商業・企業活動：歴史と現在；中央アジア・ドゥンガン人の過去と現在

A・A・ジョン、独立国家共同体ドゥンガン人に関する民族学的データ

M・D・サヴェーロフ、ウズベキスタン・ドゥンガン人の民族学的概況

② 研究代表者は研究協力者とともに細心のドゥンガン関係の情報(pdfファイル及び録音資料)を現地で得た。これらは順次整理して公表するつもりである。

③ ドゥンガン人、ロシア人、中国の回族の協力を得て、日本ドゥンガン研究会を発足させ、すでに2回の例会を持ち、電子雑誌としてその会報を2号発行させた。外国の学者との交流が進んでいる。ここには言語学者だけでなく、歴史学者、文化人類学者等も加わっている。

日本ドゥンガン研究会の顧問は次の通りである。

M・X・イマーゾフ(クルグズスタン民族アカデミー・ドゥンガン学・中国学研究所；ドゥンガン言語学、文学)

O・I・ザヴィヤーロヴァ(ロシア科学アカデミー極東研究所；中国音韻学)

胡振華(中国民族大学；回族言語学)

平山久雄(中国音韻学)

田中克彦(社会言語学)

荻原真子(文化人類学)

新免康(中央アジア史学)

日本ドゥンガン研究会の委員は次の通りである。

菅野裕臣(東京外国語大学名誉教授；言語学)

劉勳寧(明海大学；中国方言学)

池田寿美子(石川県；社会言語学)

なお電子雑誌「日本ドゥンガン研究会報」の発行・連絡先はhkanno@cba.att.ne.jp(菅野裕臣)である。希望者は誰にでも送る。

④ ドゥンガン人を含む国際集会での報告(日本文のみ)と若干の研究を合して『ドゥンガン論集』を刊行した。日本におけるドゥンガン研究のための基礎的、入門的文献と

なったと言ってよい。

上記①のドゥンガン人の報告以外に次のものを含む。

池田寿美子、ウズベキスタンにおける言語とドゥンガン人の社会生活；ドゥンガン人の言語文化を未来に警鐘するために—危機言語としてのドゥンガン語—

菅野裕臣、ドゥンガン関係論著、略歴目録

なお『ドゥンガン論集』は希望者は誰にでも送る。連絡先は hkanno@cba.att.ne.jp (菅野裕臣) である。

⑤ 非常に残念ながら中国の拡張策のおかげで資金の乏しいドゥンガン人に孔子学院を通じて中国の資金が流れ込み、ドゥンガン人に関する純粋の学問的研究が窮地に陥っているという現状を認めないわけにはいかない。今後の日本人のドゥンガン研究はやっと橋本萬太郎氏の伝統を回復したものの、新たな困難がそれを待ちうけている。

(2) ① 高麗人研究者は東京(神田外語大学)と川崎(在日韓国人団体)で講演会を持ち、映画をも含めて特にウズベキスタン高麗人の現況を報告し、日本の関係者と今後の交流を含む貴重な情報・意見交換をした。

② ウズベキスタンのカザク人研究者は東京の日本人ロシア語研究者とも会い、日本の状況を把握した。また彼とウズベク人研究者は若い研究者たちと東京外国語大学で会い、懇談し、かつ研究者たちと意見の交換を行った。

(3) 研究分担者はウズベキスタンでタタール人についてタタール語の研究を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6件)

① 菅野裕臣、最近のドゥンガン研究の概況—特にソ連崩壊後の言語学研究について、日本中央アジア学会報、査読有、9巻、2013、61-70

② 菅野裕臣、ドゥンガン関係論著、略歴目録(1977年以後)、菅野裕臣編『ドゥンガン論集』、査読無、2012、117-279

③ 菅野裕臣、歴史学のための言語学講義、満族史研究、第10号、査読無、2011、31-48

④ 菅野裕臣、在旧ソ連朝鮮人関連年表、韓国語学年報(神田外語大学)、第7号、査読無、2011、93-280

⑤ 菅原睦、前古典期チャガタイ語文学における翻訳・翻案、近藤信彰編『ペルシャ語文化圏研究の最前線』、Studia Culturae Islamicae、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、査読有、No. 99、2011、31-59

⑥ 菅原睦、書評「ナヴァーイー作品の3種の翻訳について」、『イスラム世界』、査読有、77巻、2011、67-77

[学会発表] (計 3件)

① 菅野裕臣、最近のドゥンガン研究の概況—特にソ連崩壊後の言語学研究について、日本ドゥンガン研究会、2013年1月12日、早稲田大学

② 菅原睦、借用か、2言語の混在か? 中期チュルクルグズスタン語テキストに見られるペルシャ語前置詞をめぐる、研究会『文献言語学の諸相』、2012年7月8日、千里朝日阪急ビル14階第1会議室

③ 菅野裕臣、歴史学者のための言語学講義、満族史研究会、2010年5月29日、駒澤大学

[図書] (計 1件)

① 菅野裕臣編、東京外国語大学、ドゥンガン論集、2012、280

[その他]

ホームページ等

電子雑誌

hkanno@cba.att.ne.jp 発行

菅野裕臣によるロシア語からの翻訳

① 0・I・ザヴィヤーロヴァ「橋本萬太郎教授との出会い」、日本ドゥンガン研究会報、第2号、2013年2月、20-21

② 「0・ザヴィヤーロヴァとのインタビュー」、日本ドゥンガン研究会報、第2号、2013年2月、41-62

③ A・カリーモフ「ドゥンガン語」、日本ドゥンガン研究会報、第1号、2012年7月、5-31

④ 0・I・ザヴィヤーロヴァ「アブドゥラフマン・ジャマーロヴィチ・カリーモフ・フィロロギー博士候補」、百孫通信、No. 43、2012年2月、48-55

⑤ 0・I・ザヴィヤーロヴァ「中国語の大きな世界」、百孫通信、No. 38、2011年1月、45-50

⑥ 0・I・ザヴィヤーロヴァ「中国のムスリム回族：その言語と文字の伝統」、百孫通信、

No. 38、2011年1月、63-72

⑦0・I・ザヴィヤーロヴァ「シナ・ムスリム・
テキスト：文字—音韻論—形態論」、百孫通
信、No. 38、2011年1月、73-88

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅野 裕臣 (KANO HIROOMI)
東京外国語大学・名誉教授
研究者番号：00091231

(2) 研究分担者

菅原 睦 (SUGAHARA MUTSUMI)
東京外国語大学・大学院統合国際学研究
院・准教授
研究者番号：50272612

(3) 連携研究者

柳田 賢二 (YANAGIDA KENJI)
東北大学・東北アジア研究センター・准教
授
研究者番号：90241562

(4) 研究協力者

池田 寿美子 (IKEDA SUMIKO)
石川県・職員

(5) 研究協力者

ムハメ フセズヴィチ イマゾフ
(MUXAME XUSEZOVICH IMAZOV)
クルグズスタン民族アカデミー・ドゥンガ
ン学・中国学研究所・候補会員

(6) 研究協力者

ラシド ウマーロヴィチ ユスーポフ
(RASHID UMAROVICH JUSUPOV)
クルグズスタン国立人文大学・経済学部・
教授

(7) 研究協力者

アリ アリーエヴィチ ジョン (ALI
ALIECICH DZHON)
クルグズスタン民族アカデミー・ドゥンガ
ン学・中国学研究所・研究員

(8) 研究協力者

マネ ダヴーロヴィチ サヴーロフ
(MANE DAVUROCH SAVUROV)
ウズベキスタン・ドゥンガン人協会・会長

(9) 研究協力者

マハンベト ジュスーポフ (MAXAMBET
DZHUSUPOV)
ウズベキスタン世界言語大学・教授

(10) 研究協力者

アジズ ジュラーイエフ (AZIZ JURAYEV)
辞典編纂者

(11) 研究協力者

ブルット インノケンチエヴィチ キ
ム (BRUTT INNOKENT'EVICH KIM)
ウズベキスタン高麗新聞社・編集長

(12) 研究協力者

劉 勳寧 (LIU XUNNING)
明海大学・外国語学部・教授